

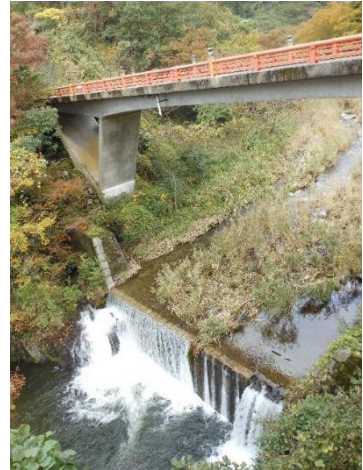
豊富な水資源

アフリカそして中近東の砂漠地帯に住む人から見て、日本の美しい川の水はきっと羨ましいに違いない。最近のテレビ放映で女と子供が 30 分以上も歩いて井戸のある所まで水瓶を抱えて水を汲みに行くシーンを見た。水の色は薄茶色。決してきれいな水のように思われぬ。それを飲み水として生活用水として使っているのであろう。水は想像以上に重たい。それを抱えて同じ道を帰っていく。それが毎日の日課となっているのだ。

日本のどこでも見られる光景だが、少し山の中に入ると川が流れ小川がある。その水は清らかで美しい。テレビで映っていた人たちにこの水を差し上げたい、そうした気持で一杯になった。改めて水のありがたさを感じた。

鳥取県三朝温泉の少し山奥にきれいな水が流れる川を見つけた。せせらぎが心地よい響きとなって聞こえてくる。近くでは川魚の養殖が行われている。イワナ、アマゴ、ヤマメ、あるいはマスかも知れないが、いずれにしても清流にしか棲まない魚たちである。

世界に目を向けると安全な水を利用できない人は 8 億 8400 万人。世界の 8 人に 1 人は、井戸、河川、湖沼などの汚染の危険性のある水源を利用している。日本国内で使用する水は自給できても食品の大半を輸入に頼る現在にあつて、人参一本、牛一頭を出荷できるまでに使用する水の量は大変なものがある。これらを含めて全て外国に頼っている事を私達は決して忘れてはならない。そこには平和で友好関係にある国際社会の上に成り立っていることも。感謝である。



撮影 2014 年秋

